レッスン：PYR 86

テーマ：シンボル、星、ピラミッド及びエレメンタル

PYR KE08 No.11 /0408

私の姉妹・兄弟たちよ。

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

このレッスンは質疑応答となります。

Q：どこで私たちのスピリチュアルな存在が終わって、魂が始まるのですか？

K：魂とだけいうことはできません、魂のセルフエピグノシスと言うべきです。そしてセルフエピグノシス（という言葉は）はその現れに、人間のイデアを通じて魂に能力を提供するという質を特定します、経験を経て最終的に自己実現に到達するために；つまり他の誰かの“私であること”とは異なった存在として“私は私である”と言うことができるように。それがセルフエピグノシスが意味することです。それ故にSoul（魂）だけでは何の意味も持たないのです。

　魂は人間のイデアを通じたスピリット・セルフモナドからのLifeのスパークです。そして私たちは魂のセルフエピグノシスをアークエンジェルと比較しました…この創造界で特定のやるべき仕事を受けもっているアークエンジェルと。魂のセルフエピグノシスはアークエンジェルですが、このアークエンジェルは何であれ他の全てのアークエンジェルのオーダーが行っていること全てを無制限に行うことができるのです。

　日常生活で人々は人が死ぬことについて話しますが、“死という現象の後に、魂は行くのですか？”と尋ねるのは間違っています。肉体を去った後、サイコノエティカル体に移行するのは現在のパーソナリティーです。（＊魂ではないという意味です）

　私たちの内側にある魂は、三次元の世界においては決してアウタルキー（＊自足状態）を去ることはなく、物理的な死の現象の後にはサイコノエティカル体に伴ってサイコノエティカル界に移動します；しかし実際にはこの次元、この波動（＊物質界）から去るのは魂ではなく、それはサイコノエティカル体、つまり現在のパーソナリティーです。

　パーソナリティーがここにいる時でさえも魂のセルフエピグノシスからのスパークであるLifeのスパークは、それはつまり魂であり、内なる神ですが、それは全ての人の内側にいます。なぜならそれは量の問題ではなく、質というものだからです。

　Lifeのスパークは決して制限ある現れに入ったことはありません。そしてそのLifeのスパークが現在のパーソナリティーを活性化させるのです。現在のパーソナリティーは実際にはLifeを現すことはなく、それはLifeのアイコンです。そして私たちはこのアイコンを打ち破り、Lifeの本質を現すようになるべきです。

　この波動の世界から去っていくのは現在のパーソナリティーです、なぜならLifeのスパークは私たちの内側にありますが、しかしそれはまたあらゆる所にいて、アウタルキーを去ることは決してないからです。Lifeのスパークを制限ある中に閉じ込めることが可能でしょうか？勿論不可能です。

　スパークは何かを得るでしょうか？勿論、得ません、しかしそのスパークが“得る”ものはその特定のLifeのスパークに記録された体験であり、そのようにしてLifeのスパークは現在のパーソナリティーが自己実現した時には魂のセルフエピグノシスに、そして後にはスピリット・モナドセルフにその自己実現を提供することができるのです。そしてそのLifeのスパークのカラー、色合いは他の全てのLifeのスパークとは異なっています。人々が魂は神から転落したとか、大天使が転落したと言うのは間違っています。

Page2

Q：現在のパーソナリティーにおいて小さな14芒星、大きな五芒星、六芒星そして小さな三角形などは何であり、どこに位置するのですか？

K：それらの特定の目的はその星によりますが、例えば五芒星の場合はまず最初に肉体にその形を与え、また五つの感覚を与えます。肉体を使うパーソナリティーは、それが真の五感であろうと影の五感であろうと五感を使います。

　14芒星については、現在のパーソナリティーは様々な経験を経る必要があり、その様々な経験は原因と結果の法則により特定されます。ですから、何であれそれ以前の転生によって潜在意識に記録されたものが、次の転生において与えられることになります…それによってバランスを取るために。それが14芒星が意味するものです。ですから毎回の新たな転生の度に､同じ14芒星ではない新たな小さな14芒星があるのであり、それは太陽神経叢のところにあります。大きな14芒星は初めての転生から自己実現までを意味します。

Q：14芒星ですが、新しい次の転生においてそのパーソナリティーが何を経験するかという決断と共にあるのですか？

K：はい、しかし、同時に、進行していく間に物事は変化します。現在のパーソナリティーのやるべき事とは何ですか？それはキリスト意識に到達することであり、それ故にそのシンボルがそこにあるのです。自己実現するとそのパーソナリティーは一つのセンターだけがあるようになり、それはハートのセンターです。そしてそのパーソナリティーは何であれLifeが提供するものを現します。そして何であれLifeが提供するもの、それは主、つまりLifeの海から来るのであり、それはイエスキリストロゴス、つまりLifeの海です。そして私たちにはこのシンボルがハートのところにあります。キリスト意識を意味する唯一のシンボルである六芒星です。

Q：現在のパーソナリティーは自己実現に向けて進行中であるのに、なぜ転生するたびに新しいシンボルが必要となるのですか？

K：なぜならば、現在のパーソナリティーのなかに、永遠のアトムのなかには同時に自己実現のために使用される体があります。その体は私たちの内側にあり、そのシンボルは常に同じです；同じ事は五芒星についても言えます。転生する度に新しくなる唯一のシンボルは、その転生した新しい現在のパーソナリティーが経験しなければならないことを意味する14芒星です；それが先ほど述べた意味です。

　一番上の大きな三角形に関しては、それは大宇宙的にアウタルキーにおける絶対存在を意味します；しかし、それは自己実現の時にはそれは必要としません。Lifeはそのシンボルを必要としません；それを必要とするのは進化成長の途上にある人間だけです。

Q：それは自己実現したパーソナリティーは小さな14芒星は必要ないということですか？

K：それは誰もが必要とします。なぜなら自己実現したパーソナリティーであっても、転生のサイクルのなかにいる間は小さな14芒星を必要とします。しかし大きな14芒星は必要ではありません。

Q：私は自己実現したパーソナリティーはもはやそれ以上の経験をする必要はないのではと思いました。

K：勿論、成長するための経験は必要ありませんが、しかしそのパーソナリティーは他の人々のためにアガピを与えるというプロセスのなかで種々の経験をすることになり、その意味でそのパーソナリティーは他の全ての人々のように普通の人間です。あなたは自己実現した現在のパーソナリティーを人間ではないとみなしているのですね。とんでもないです！他の人々と同じ人間です。唯一の違いは、もはや進化成長はないということです；達成すべきことは達成されたからです。

　現在のパーソナリティーとしては全ての人と全く同じですが、他の同胞の人間達を抱きしめ、その苦しみを軽減することができようになるために高次ノエティカル体によって与えられた能力を持っています。そして自己実現したLifeの現れとして、全ての人に究極のアガピを現します。しかし、愛している人に現すそのアガピは究極のエロティズムです：アガピは全ての人々に対して表現されますが、しかし特に特定の人にはエロティズムとして表現されます。丁度、全ての人間が自分の愛する人にエロティズムを現すように。それはアガピとはみなされず、エロティズムです。同じことが自己実現した現在のパーソナリティーが愛する人に現す場合にも言えますが、その場合そのエロティズムは究極のステートの現れとなります。

Page3

Q：2次元の三角形と六芒星の関係は何ですか？

K：レッスンで述べたように、この現れの波動において（＊物質界のこと）アプローチできるのは3次元のシンボルだけです。さて六芒星と三角形との唯一の関係は六芒星は2つの三角形から出来ているということです…上向きと下向きの三角形です。

　下向きの三角形は創造界へのイエスキリストロゴスの下降を意味し、また元型としての人間のイデアフォームを提供します。そしてまた骨組みをも提供します。その骨組みは活性化されると元型としての人間のイデアフォームを支えます。そして同時にまたその骨組みは創造のセルでもあり、それは創造界それ自体の骨組みです。

　ですから、三角形は六芒星と関係しています。なぜならそれは2つの三角形から出来ているからです。2番目の三角形は（＊上向きの三角形）は今やLifeそれ自体から現している…つまりキリストロゴスと共にと言えますが…自己実現した現在のパーソナリティーを意味します。現在のパーソナリティーとなる以前は、それは内側にLifeのスパークを有していました、キリストロゴスを内側に有し、現在のパーソナリティーを活性化させていましたが、しかし自己実現した現在のパーソナリティーは今やman-personalityの代わりにpersonality-man　となっています。man-personalityは現在のパーソナリティーが3次元の世界に初めて入って来る前に、サイコノエティカル界においてアダム＆イブとして存在していたステートです。

　自己実現において私たちは現在のパーソナリティーではない自己を現します；それが初めての転生の前のステートに戻ると、自己実現した人はpersonality-manとなります。初めて転生する前には、man-personalityはLifeの本質を完全に現していましたが、今やそれはキリスト意識においてLifeの本質を現すようになります。なぜなら、personality-manは高次ノエティカル体を使用することができるからです。

　この現れはアダム＆イブとしてのLifeのスパークの現れであると言いました。そして自己実現すると再びそれが表現されます。しかし、再びそのステートに戻って来ると、二元性の能力を持つ理由はありません…もし境界を越えて実存の世界から存在の世界に入るという意図があるのならば。転生する理由はもはやありません。しかしもし再び転生するのであれば、二元性の能力を有し、性別がそこにあり、同時に完全に再形成されたサイコノエティカル体を持つのです。

Q：闇のフォースは創造界の部分として絶対に必要なのですか？

K：闇のフォースは人類の無知が創造したものですが、その能力は（なぜならばそれも能力なので）Lifeによって提供されたものです…その結果として人間が体験を経ることができるように。それ故に、私たちは人生において生じること、この波動の世界において起きることをジャッジすべきではないのです。なぜなら全てにはディバインの聖なる理由があるからです。私たちは経験を重ねるためにここに生きています、それによって個別性を現し、誰か他の人のI’ness（私）とは異なる＜I am I＞と言うことができるようにです。そして私たちは自分の個人性を特定するために名前を使用しています。

Q：あなたは以前に、六芒星は闇のステートに直面するためにも必要であると言いました。それはこの波動の世界の向こう側にも闇は存在しているのですか？

K：ノー、ノー、ノー。闇の現れはどこにありますか？実存の諸世界及びサイコノエティカル界においてです。なぜなら何であれ私たちがここで創造すると、それはサイコノエティカル界にも存在するからです。暗闇に奉仕し、デモン（悪魔）を創造する人間、それらのデモンはどこで創造されると思いますか？まず始めに、それらはサイコノエティカル界で創造されます。なぜなら人間は思考を使ってエレメンタル、闇への奉仕者を生み出します。デモン、悪魔とは実際人間の悪魔的思考の結果です。不可視のヘルパーの役割の一つは、この波動の世界において及びサイコノエティカル界において、そのような悪魔的エレメンタルのエネルギーを消すことです。

Q：しかし、彼等（悪魔的エレメンタル）はサイコノエティカル界において人間のモナドのサイコノエティカル体に影響を与えることができるのですか？

Page4

K：はい、彼等は人々に影響を与えようとします、特に彼等と同じような現れのレベルの波動にいる人々に。彼等は実際、異なった波動の持ち主には影響を及ぼすことはできません。しかし、この波動の世界では、つまり物質界では、彼等はあなた方を取り囲んで孤立させようとし、あなた方は攻撃されます。しかし彼等が攻撃するのは恐れを抱いている人々、彼等の行為を止めさせようとする人々、彼等を非活性化させようとする人々、彼等の前に立ちはだかる人々だけを攻撃します。ですから恐れないでください。彼等はあなた方を攻撃しません。しかし、もし悪魔の集団によって攻撃されたら、彼等は悪魔なのでそれに向かい合いましょう。彼等と戦う必要があります。

Q：それではもし彼等から攻撃されると、どうなるのですか？その人に何が起きるのですか？

K：お話したように、皆さんが攻撃されることはありません。彼等が攻撃するのは、彼等にとって危険だと思う相手であり、自分達を防御するために攻撃するのです。彼等がまず攻撃するのは、助けを与えるために働いている人々、特定の活動にフォーカスしている人々であり、その時彼等はあなたを攻撃するチャンスを見いだします。それに対しては備える必要があります。通常、それは個人ではなく彼等はグループで攻撃してきます。彼等はあなたに害をもたらし、孤立させようとします。しかし、彼等に対面することができるステートに到達していないいかなる人をも攻撃することはできません。それは法則です。その人が非常に低い波動の持ち主なので彼等がその人と一つになることができる場合には、その人のエネルギーを吸い取り、もし友達になりたければ友達になりますが、それ以外の人々に対しては何もしません。

　彼等は自己実現に到達した人のみを攻撃します。彼等が恐れるのはそのような人だけで、それ以外の人を恐れることはありません；しかし、その人は悪魔達に対面することができます。彼等はその人に害を与えることができるという幻想を抱いていますが、実際にはできないのです。しかし闘う場合、それは真の戦いであり、物理的な戦いではありません。あなたを活動不可能にさせ、その状態が30分ほど続きます。しかしその後、あなたは彼等のエネルギーを非活性化状態にさせます。その時初めて彼等は何も手出しができないとわかり、消え去っていきます。

　自己実現のステートでは、彼等に対面することによって彼等のエネルギーを非活性化させることができます。なぜなら彼等が攻撃し、あなたは物理的な手段で攻撃しないからです。彼等が嫌う唯一のものは光です；あなたはそれと共に闘うのです。しかし、彼等はそれを避けようとします。あなたが肉体の中にいる時にあなたを攻撃する場合、彼等はあなたを取り囲みますが、それはまるで黒い雲のようです。あなたはその色を変えようと、光に、輝く白に変えようとします。それはとても効果があります。

Q：私たちがエクササイズをしようとする時、それに集中できない時がありますが、それは自分のエゴでしょうか、それとも闇のフォースによるものでしょうか？

K：ノー、それはあなたの中の小さなエゴです。しかし、小さなエゴは時には暗闇に奉仕するものによって攻撃されます。特にもしその人の波動が闇のフォースにエネルギーを与える人々の波動と非常に近い場合には。しかし、現在のパーソナリティーの小さなエゴはまた他の人間の小さなエゴとつながります。特にその特定の人と非常に近い特定のパーソナリティーとつながります。

Q：夢の中で私たちが攻撃された場合、それは誰かが実際に攻撃しているのですか。それともそれは自分が創造したものですか？

K：多くの可能性があります。あなたの小さなエゴが生み出したかもしれず、あるいは他人が生み出したもの、つまりエレメンタルかもしれません。

Q：私はそのような夢を見たことがあり、そこから脱出しようとして、私は夢の中で祈りました。　それは非常に怖い体験でした。時には、私は夢の中で身体が麻痺し、夢の中でお祈りをします。

K：彼等が嫌いなシンボルは十字のシンボルです、それはLife、イエスキリストロゴスを意味します。また光を意味します。白い光の輝きを彼等に送ることができます；あなたは自分がいる空間を白色でカバーし、あるいは稲妻のようにそれを送ることもできます。光の玉を送ることもできます。

Q：うとうとして眠りに入ろうとしている時に闇のフォースがやってくるのを感じた時、それを止めるために直ちに十字を使うことはできますか？

K：勿論です。いずれにしても、もしそのような悪夢を見て恐怖感を感じたら、電灯をつけます。彼等は明かりの中にいることができません。それゆえに、彼等は昼間は、特に戸外で、また電灯のついている夜には攻撃してこないのです。

Q：回転する三面ピラミッドのエクササイズは私たちに何を与えてくれるのですか？なぜなら私たちはまだそこから恩恵を受け取るレベルではないので。

K：究極的には恩恵を受けることになります。なぜならあるポイントであなたの助けになるからです。

Page5

Q：現在のパーソナリティー全員がそれぞれ弱点や中毒になりやすい可能性もあり、執着症状に陥る可能性もあります。そしてそれらと闘おうと努力することにより、そこにあまりにも注意を向けることによって、時には否定的な結果に陥ることがあります。それらの問題を扱う建設的な方法がありますか？あるいは自然に任せればよいのでしょうか？

K：ノー、それらの強度の執着や中毒症状その他のある人は、精神分析その他を通じて助けを求めるべきです。それらのケースの多くは実際にはサイコノエティカルな病気であるのに、そうと分類されていません。それは現在のパーソナリティーの病気であり、時には原因結果の法則によるものもあります。なぜなら、彼等は前世において何かにフォーカスし、今生でその結果を経験しているのです。

“なぜ原因を探るのか？”と言うことができます。結果だけで十分ではないでしょうか？結果が症状として出ているということは、原因はそこにあることを意味します。優れた精神分析家は必ずしも患者を過去に引き戻したりしません。それはエレブナでも言いました。その人は原因を見ることができるべきですが、それは必ずしもその人に質問したり、催眠療法によって過去生に連れ戻すということではありません。原因は表面近くにあって、その現在のパーソナリティーに影響を与えているのです。

　今その結果が生じているということは、なぜなら原因が活性化しているからです；つまり潜在意識の表面近くにあるということであり、時にはそれは表面に浮上しています。そのような場合、そのパーソナリティーは顔の特徴、また声さえも変化することがあり、それは引き裂かれたパーソナリティーと言われるものです。

Q：しかし、今述べている症状は極端な場合であり、大部分の人々はその中間あたりにいます。そのような人も同じような助けを求めるべきでしょうか、それとも一度自分の弱点を認識して、それに対して働きかけようとする時には他の方法がありますか？

K：エレブナが助けになる別の方法があり、それは気づきを高めることです。そうすることによってそのパーソナリティーはその結果から苦しむことがなくなるでしょう。原因は近くにあっても、そのパーソナリティーはもはや結果を経ることがなくなるでしょう。それは簡単なプロセスではありませんが、しかしそれはプロセスです。それゆえに前に私たちが述べたそのようなケースは癒えるのが困難なのです。そして特に前世から来ている原因が非常に強い場合は、そのパーソナリティーはその原因をさらにもっと強め続けます。

Q：もし誰かの執着の犠牲者である場合、そこから影響を受けないようにするためにはどうしたらよいですか？

K：もしあなたがそのような影響を受けて行動上も問題となっているような場合、助けを求めるべきです。しかし、エレブナの会員であるあなたには守りがあり、誰かからの攻撃に対して恐れるべきではありません；唯一恐れるべきことは、何であれあなた自身が創造したものから来るものであって、それがあなたの部屋（＊これは心の内側にある自分の部屋のことだと思います）の中に留まっている場合です。なぜなら、その時それはあなたの守護のシールドのなかにあり、その外側にあるわけではないからです。

Ｑ：光のエンジェルは人々が創造したものではないのですか？

Ｋ：ノー、アークエンジェル達がエンジェル達を創造します；一般的に人類のために奉仕する存在です。勿論、アークエンジェルによって創造された、光の奉仕者であるエンジェル達がいます；人間がそれに同調するか否かは別ですが。人間が無知のステートにいる間は、人間はそれらに同調しません。

Ｑ：それではパーソナリティーは何であれ光りとしてそこにあるものを使わねばならないのですか？

Ｋ：私たちもまた光を創造できます。人間においては、私たちの内側にあるLifeのスパークはアークエンジェルであり、自己実現の時に何が起きるかと言うと、私たちが自分のアークエンジェル的ヒポスタシス（＊状態）を現し、何であれ他の全てのアークエンジェル達ができることを自己実現した人もまた行うことができるのです。また物質界においてアークエンジェルのオーダー達と共同作業をすることもできます…自己実現した人の肉体内においてさえも。自分自身の身体のためにそれを行うか否かは別問題ですが。何故でしょうか？なぜなら自己実現した人の肉体は他の全ての同胞の人間たちのために捧げられているからです…人々の痛みを軽減させるために、そしてその結果、自己実現した人の身体が蒙ることはその努力の結果です。

　つまり、自己実現した人は他の人間のために自分の身体を十字架にかけるのです。もしその時に何であれ自分の身体で生じていることを軽減しようとすると、それは痛みを取り去った相手の身体に再び戻ることになります。ですから、もしあたかも偶然のように生じて、そしてそれが誰かから取り去った結果でなければ、自己実現したそのパーソナリティーはそれを変えて健康な状態にすることができるのです。

Page6

Q :病気の人を私たちがあたかも健康であるかのように視覚化する時、何が生じるのですか？私たちが心の中で描く理想状態が原型として高次ノエティカル界に行くのですか？

K：健康になるようにと私たちが相手または自分のために視覚化したものはエレメンタルとして相手または自分に送られます。それが良い結果を生むか否かは原因結果の法則次第です。そのエレメンタルのパワーは、その視覚化の強さおよびその背後にある意味および言葉によります。創造エーテルは潜在意識的に使用されます。そのエレメンタルはそのパーソナリティーと共に留まり、望まれた結果をもたらすでしょう…もし、そして原因結果の法則がそれを許した時に。

　時には、相手がヒーリングに即座に反応し、数時間または数日のちに問題が再び現れることもあります。さて、このような場合、その人がヒーリングに対して心配したり、疑いを抱いた結果であり、原因結果の法則とは関係ないのでしょうか？たぶん、もし原因結果の法則がそれを許すならそれ（＊治癒）はそこに留まり、さもなければ、そのパーソナリティーは人生とその問題に別の方法で向き合う必要があるのかもしれません。

　その人が現象的には治癒したのですが、実際には治癒はそのパーソナリティーのステート（＊意識の状態）およびその人の日常の態度行動などにより、その周波数を変えるのは困難であるケースが多々あります。

　治癒されるか否かにかかわらず、原因結果の法則はつねにそこに働いていますが、しかしヒーラーから与えられるディバインの慈悲に逆らって進むことはできません。そして助けが許される割合はレッスンで説明しました。同じように、ヒーラーは法則に逆らって進むことはありませんが、しかしヒーラーはその場合、相手の痛みを軽減するためにある程度それを自分で引き受けるでしょう。

EREVNA PYR 86/KE08 No.11 /0408